

# 平成30年度予算に対する公明党市議団の意見表明

平成30年度の一般会計と特別会計17会計(企業会計含む)および合計の全会計規模

一般会計	445,400 百万円	増減率 0.9%	前年対比 3,900 百万円
特別会計	444,815 百万円	増減率△4.9%	前年対比△23,067 百万円
合計	890,215 百万円	増減率△2.1%	前年対比△19,167 百万円

## 市議団の予算に対する意見

公明党千葉市議会議員団では、新年度予算案の審議にあたり、市長の提案理由の説明や我が会派の代表質疑に対する答弁、さらには予算審査特別委員会の審議等を通じ、各種施策を慎重に検討いたしました。

その結果、新年度予算案は、厳しい財政見通しのなか、歳入確保や歳出削減の取り組みを進めるとともに、財源対策として財政調整基金からの繰入や退職手当債の発行などにより収支の均衡が図られたところであり、依然としてきびしいものとなっています。

しかしながら、国の補正予算を活用して2月補正と連動した予算編成とし、防災・減災対策への取り組みや安心・安全な市民生活に向けての施策の推進、そして超高齢社会の到来を踏まえた諸施策の拡充や子育て支援の推進など市民生活に密着したさまざまな

施策を推進するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた施策の拡充や地域経済の活性化、魅力あるまちづくりの推進など将来を見据えたまちづくりへの取り組みも展開されていることが確認できました。

一方で、財政の健全化への取り組みも進められており、さらに市民の意見や、要望を集約した公明党市議団の平成30年度予算編成に関しての要望に対する一定の取り組みも認められ、新年度予算案を評価すべきものと判断いたしました。

厳しい財政状況が続くなかであって、人口減少・少子超高齢社会の進展を見据え、一層の市民福祉の向上とともに魅力ある都市としての発展を目指し、全力で取り組まれるよう要望しました。

## 市政に関するご意見やご要望をお寄せください!

性別・年齢・お住まいについて(該当するものに✓をおつけください。)

- ▶性別  男性  女性 ▶お住い  中央区  花見川区  稲毛区  若葉区  緑区  美浜区  
▶年齢  20歳未満  20~39歳  40~59歳  60~74歳  75歳以上

お寄せいただいたご意見・ご要望については、政策提案等に役立てて参ります。 **FAX.043-245-5584**

公明党千葉市議会議員団 TEL.043-245-5483 <http://gate.ruru.ne.jp/chibakomei/>

# 公明党千葉市議会議員団 市議会だより

発行日/平成30年3月 発行/公明党千葉市議会議員団  
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1-1

2018  
春号

## 「もったいない」をキーワードに食べ残しゼロ!

### 学校教育における 食品ロス削減の取り組みを推進



これまで国として年間で推計631万トンの食品のムダが発生していることから、官民をあげた食品ロス削減に取り組む国民運動の展開を呼びかけています。しかし、依然として大量に発生している状況です。

そこで、子どもから大人まで、全世代の食品ロス削減運動につなげるためには、学校における環境教育や食育の視点で、食品ロス削減の取り組みを推進することが重要と考え、千葉市の学校教育における食品ロス削減の現状と今後の取り組みについて要望しました。

教育長からは「現在、学校において、子どもたちの成長に合わせた適切な給食の提供とともに、食べず嫌いをなくすよう、献立や調理方法に工夫を加えています。また、平成30年7月からは、新たに、若葉区3校・緑区7校の小学校を対象に、学校給食から発生する調理くずなどを堆肥として再利用するモデル事業を実施し、3R\*のしくみを児童が学び、各家庭の生ごみ発生抑制の取り組み、食品ロスの削減を進めていく」旨の答弁がありました。



\*3R: リデュース(発生抑制)  
リユース(再利用)  
リサイクル(資源として再利用)

# 第1回 定例議会 代表質疑より

## あと3年!! 市政100周年へ向けて

東京2020オリンピック・パラリンピックの翌年2021年に、千葉市は市政100周年となり、大きな節目を迎えます。

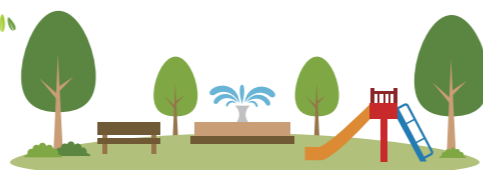
本市を創り上げてきた先人たちの功績を称え本市の歴史や魅力を再認識するため、郷土への愛着をふかめるとともに、次の世代を思い、新たな100周年に向け更なる発展の契機と考え、市政100周年に向けて取り組みを要望しました。

市長からは「市制施行以来の100年の歩みはもとより、悠久の歴史の上に成り立っている千葉市の姿を改めて認識していただく良い機会であり、さらに都市としての千葉市のあるべき姿や進むべき方向性を考える契機にもなりうるものと考えております」との答弁がありました。

## 都市公園の大胆な活用を!!

都市公園法の改正により、全国の公園内に保育所などの通所利用の福祉施設を設置できるようになりました。そこで、自然豊かな都市公園に福祉施設を設置し、民間活力の活用を要望しました。

市長からは、「社会福祉施設に対する需要がありながら、用地確保が困難な都市部において、公園の土地を有効に活用することで、待機児童対策や老人福祉サービスおよび障がい者支援の充実など社会的な課題解決の効果はもとより、地域住民と施設利用者との交流から生まれる共生社会に貢献しうよう、地域の意見も踏まえながら、適切に対応して参ります」との答弁がありました。



## 高齢者の皆さんが安心して暮らせる社会を

私たち公明党市議団は超高齢社会の進展を踏まえ、地域包括ケアシステムの構築に向け千葉市あんしんケアセンターの増設および機能強化など、様々な視点から提言を重ねてきました。



特に「医療と介護の連携強化」、「認知症対策への取り組み強化」をいち早く求めた平成26年第4回定例会の我が会派の代表質問では、市長から在宅医療・介護連携支援センターの設置についての答弁があり、今議会で、改めて在宅医療・介護連携支援センターの取り組みについて伺いました。

市長から「センターでは、在宅療養患者の入退院支援に伴う、医療・介護専門職向けの支援窓口業務を中心に、在宅医療・介護連携の課題への対応策検討などを行い、センターの運営は市直営とし、千葉市総合保険医療センター内に設置を予定している」との答弁がありました。

## 建物や橋、電柱の倒壊を防ぐ! 緊急輸送道路の地震対策について



緊急輸送道路は災害直後より、避難・救助をはじめ、物資の供給等、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線であることから、沿道建築物の耐震化や橋の倒壊防止に加え、路面に大きな段差が生じないように対策が求められています。また、道路法改正で、緊急輸送道路や避難路となる重要な路線において、区域を指定して新たな電柱の占用を禁止または制限できることが示されました。

そこで、千葉市の緊急輸送道路の地震対策の考え方と今後の無電柱化等に、どのように取り組むのか伺いました。

副市長から「蘇我スポーツ公園や幕張メッセなどの物資輸送拠点、千葉県救急医療センターなどの災害拠点病院にネットワークする道路の耐震化を最優先し、通行を確保すべきと考えています。

そのようなことから、京葉道路松ヶ丘インターチェンジから緊急輸送道路である千葉大網線を経由し、災害拠点病院である青葉病院および千葉大学付属病院に連絡する道路の無電柱化に取り組んでいく」旨の答弁がありました。

## 感震ブレーカーの設置推進事業が実現! 公明党市議団の実績



今後30年以内に震度6弱以上の地震が発生する確率は、千葉市が最も高い85%とされています。市議団として、大規模地震時の電気火災を防ぐため、延焼危険性の高い地域の対策として、感震ブレーカーの設置が有効で、その助成制度創設や現物支給を求めてきました。

新年度から感震ブレーカー等設置推進事業が始まります。

無償配布の重点密集市街地  
H30：稲毛東5丁目(800世帯)  
H31：椿森3丁目(700世帯)



### 要改善市街地(11地区)

- ① 中央区院内2丁目・道場北1丁目地区
- ② 中央区旭町地区
- ③ 中央区亀井町地区
- ④ 中央区葛城2・3丁目地区
- ⑤ 中央区椿森1丁目地区
- ⑥ 中央区弁天2丁目地区
- ⑦ 中央区道場南1・2丁目地区
- ⑧ 稲毛区穴川2・3丁目地区
- ⑨ 稲毛区稲毛2・3丁目地区
- ⑩ 花見川区検見川2・3・5丁目地区
- ⑪ 花見川区幕張1・2・3・4丁目地区

### 11地区 対象の200世帯へ 設置補助

(町内自治会単位の共同購入)

補助額：設置費用の1/2  
上限3,000円/世帯